

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
かむらっきーず		令和8年 2月 13日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・定員以内で運営を行っている。 ・学習室、プレイルーム、相談室、休憩室に分かれており、適切であると思う。	・人数の兼ね合いで帰りの会時等、長机に子どもが座りきれない時がある。(その都度、空いているスペースに座ってもらう・小さい机を出す等の対応を行っている)
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	1	配置数は適切である。	・送迎時に手薄になってしまう場合がある ・支援員がもう少し多ければ、手厚い支援ができると思う。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・パーティションなどで仕切ったり、視覚支援で活動が出来る様になっている。 ・おもちゃの棚には何をなおせばいいか視覚的な支援があり、課題棚の設置など環境の配慮が出来ている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	・子どもの状態で配置を変更したり、都度導線を意識した環境整備を行っている。 ・毎日掃除をしており清潔な環境を維持し、おもちゃの消毒をし感染対策をしている。プレイルームと学習室に分かれていることにより子供たちも課題、遊ぶ場所と切り替えがしやすい環境になっている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・大まかな使用ルールを作り、柔軟に対応できるようにしている。 ・子どもが休みたいときや1人になりたい時など休憩室、相談室があり、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・事業所内の事については常に共有を行い、意見を出し合い改善を行っている。 ・朝のミーティングで全員で話し合い、共有、目標設定、振り返りが出来ている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・年1回の評価を提出してもらい、業務改善や支援に対し、保護者への発信を強化している。 ・保護者のアンケートから防災のための訓練実施をあまり周知されていないということが分かったので、かむらっきーず便りや、訓練後に子供たちの課題でもう1度振り返る機会を作るなど業務改善につなげている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・朝の全体ミーティングで前日の振り返りや、ケースカンファレンスで職員の意見等を把握する機会を設けておりより良い支援のために工夫している。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	teacherteacherなど、外部コンサルの意見を取り入れている。	特に行っていない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		職員向けの研修を随時案内している。また、現在の課題に合った研修があれば提案し、行っている。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		職員・保護者にも共有をし、いつでも確認できるように施設・ホームページに掲示している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・スモールステップで支援が行える様、意見を出し合い計画を立てている。 ・アセスメントを行い、家庭での困りごとなども保護者と支援員で話しあい、支援に繋がっている。 ・個別支援計画では、子どもの得意なこと・長所等を反映した計画を作成することがある。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・全職員で話し合い、より良い支援につながるアイデアを出し合っている。 ・ケースカンファレンスでの全体の話し合いをもとに策せられ、職員が共通理解できている。	

14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		いつでも閲覧できるようにし、日々の細かい線に関しては毎日のMTGで共有を行っている。 ・全体のミーティングの際での共有や職員同士相談しやすい空気があり、課題の内容など支援員同士で共有することで計画に沿った支援が行われるよう工夫している。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・保護者向けの連絡帳で子どもの様子が分かる様になっているまた、ケース記録やその他報告書などで詳しく分析、対処を行っている。	
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・色々な角度から、より良い支援を選定し支援計画に盛り込んでいる。具体的な支援内容で、日々の支援の方向づけをしている。 ・放課後等デイサービスガイドラインに含まれるねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの将来までも考慮した上で設定されている。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・イベントや集団で行う活動は、話し合ってから決定している。 ・ケースカンファレンスを通し、全体での話し合いの上で決めている。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・子どもの状態に添える形で、柔軟に計画をしている。 ・集団活動を週に1度計画し、固定化しないように工夫している。 ・季節に因んだイベント等も行っている。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		・曜日や時間帯で区切り、組み合わせで支援が出来る様になっている。 ・個別課題でのこどものねらいと、自由時間でのお友達との関わり、集団活動の組み合わせで作成、支援ができています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日MTGで支援や役割、担当を割り振り、連携しながら行っている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	同じ日には振り返りが行えない状況なので、次の日に話し合っている。	当日緊急性のあるもの以外、翌日に共有している。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・連絡帳に詳しく記入し、保護者へ共有を行っている。MTGで話し合い改善に努めている。 ・日々の記録を基に2か月に一度ケースカンファレンスを実施し、支援の検証・改善を検討している。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・どんなに小さな事でも共有を行い、改善策を出す事に努めている。 ・2か月に1回のモニタリングを行い、全体で共有し、話し合いを重ね適切な見直しをしている。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6		・個人での課題で組み合わせた支援を行っている。また、イベントなどで様々な体験が出来るものを取り入れている。 ・支援目標にも「4つの基本活動」を複数組み合わせさせており、工夫ができています。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・個々の性格や特性に合わせて、同じ支援でも進め方を変えている。また様々な経験を積みながら、得意な事が見つかるような支援を行っている。 ・自分のスケジュールを立てるような支援や、支援員がすぐ答えをださず、問いかけるなど自己決定できるよう支援している。 ・自己選択・自発的な行動が身につくよう支援を実施している。	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		主に、児童発達管理責任者が参加しているが、必要と判断すれば参加を試みている。子どもの事に関しては日々、共有をしているため全員が理解出来ている。	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	学校や家庭での相談事やトラブルに関して、必要な関係機関と連絡をとり、常に統一した支援が行えるようにしている。	

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	連絡ツールを使用し、常に情報共有を行いながら運営を行っている。学習状況の聞き取りや、こどもの授業の様子の見学など学校と連携を取り、年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等も適切に行っている。	学校によっては「施設と学校が契約しているわけではないから」と情報共有に閉鎖的な学校もある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2		・情報共有が必要な子供が特になかったことから、未だ行っていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3		・在籍しているのが小学生、中学生のため学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合がまだない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	・地域の児童発達支援センターからの情報を受け取り、必要に応じて研修などに参加させてもらっている。	・必要とする事例がなかったため未実施。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	地域のバザーに参加し、交流を行った。	他の放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動があまりない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		未実施。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		毎回連絡帳を通じて、支援状況や今後の課題について触れ、ご家庭でも出来る支援があれば伝えていく。また、状況に応じて対面での報告も行っている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	定期的に保護者参加型のイベントを組み、支援員や保護者同士の交流を行ったり、一緒に課題を行うなど、支援の理解が出来る機会を設けている。	・家族等の参加できる研修の機会がないように感じる。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・契約時に運営規定や支援プログラム利用者負担額について不明点や疑問点がないように説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		定期的な面談を通じて、サービスの確認を行っている。また、常に子供の意見に耳を傾け、今後のサービスとズレがないか確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		定期的に対面での面談を通じて、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者と連絡が取れるツールを使用し、悩みや相談にすぐ対応ができるようにしている。また、話し合いが必要であれば提案し、各関係機関と会議を開いている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしている	6		保護者参加型のイベントを定期的に行い、交流が出来る場を提供している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情があった際には迅速に対応し、最善の解決策を取っている。また、勝手な対応にならないように最善の配慮を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		月一のお便り、SNS等で日々の活動の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・名前、顔などが流出しない様な配慮を行っている。新たにその様な事案が発生した場合は、周知・許可を取っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・面談、送り迎えの時の情報共有、連絡帳での伝達など工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	・地域のフェスタに参加し、出店やお祭りの見学など地域に開かれた事業所となるよう工夫している。	個人情報を扱う上で、放デイ＝「障がいを持つ児童」が通う施設という認識がある中、どこまでオープンにしているのか悩む。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		定期的に読み合わせを行っている。マニュアルはいつでも確認出来る場所に設置している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・災害対策委員会など安全管理のための委員会などが設置され、避難訓練、経路の確認なども実施され工夫している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・てんかんを持っている児童の職員間で共有し、てんかんの時の対応など学んでいる。 ・保護者から連絡があった場合は、その事について話し合い、誰でもすぐに対応できるようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		医師の指示がある児童はいない。 保護者からの情報をもとに、アレルギー除去を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・その時の状況により、話し合いをしたうえで支援に当たるようにしている。また、細かい確認を行いながら支援に当たっている。 ・職員間で共有し、研修や訓練がある。	

51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		・かむらっきーず便りでの全体への周知や、面談の際に保護者の方にしっかり説明の工夫をしている。	
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		毎日のMTG内でヒヤリハットについての報告をし、報告書作成を行っている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		年1回の虐待防止についての研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		身体拘束について組織的に決定し、個別支援計画に記載し、事前に保護者への同意を得ている。	